

報道関係者各位

平成 21年 6月 17日  
株式会社コーチ・エイ**伊藤守、慶應義塾大学ビジネススクールにて講演**  
～リーダーとリーダーシップ開発を目的としたコーチング～

コーチング・ファーム、株式会社コーチ・エイ(東京都千代田区、03-3237-8815)の代表取締役会長 伊藤守は、6月4日、慶應義塾大学大学院経営管理研究科にて、「リーダーとリーダーシップ開発を目的としたコーチング」と題する講演を行いました。

本講演は、行動ファイナンスとコーポレートガバナンスをご専門とし、同大学MBAコースで教鞭をとる小幡績准教授の依頼により特別講演会として実現したものです。伊藤は、自動車メーカーや製薬会社、飲料メーカーでのコーチング導入の実績データをもち、「**これからの経営人材としてのリーダーに求められる要素**」についてお話しました。

**<リーダーに求められる要素>****1. 人との間に関係性を築く知能**

人と組織のパフォーマンス向上には、人事評価システムなどハード面の構築だけでなく、自分と回りの間に“関係性”を築く知能(リレーショナル・インテリジェンス)が不可欠です。それには、聞くことを中心とした“双方向”のコミュニケーション “継続的”な関わり 千差万別な人材への“個別対応”という、コーチングの三原則の視点をもった関わり方が必要です。

**2. 人を育てることに対する信念**

「部下育成能力」は「仕事の能力」とは異なるものです。役職による“権限”だけでなく、人への“影響力”を高めるには、日々どれだけ相手(部下)を“観察”し、その強みに“着目”して発揮させ、その成長を“喜ぶ”ことができるかが重要です。

**3. 「アカウントビリティ」の意識**

講演の最後に伊藤が強調したのは、ビジネスシーンで直面するクレームや人事問題、人間関係などに対していかに「当事者意識(アカウントビリティ)」をもてるか、がポイントであり、「責任を自分に引き寄せるための“意識と行動の変革”にコーチの存在意義がある」と締めくくりました。

講義終了後、多様な社会人経験をもつ受講生から「コーチングが機能する場面」や「職場での信頼関係の構築」など多数の質問があがり、活発な議論が行われました。

<b>社名:</b>	株式会社コーチ・エイ
<b>本社所在地:</b>	〒102-0074 東京都千代田区九段南 2-1-30 イタリア文化会館ビル 10階
<b>URL:</b>	<a href="http://www.coachA.com/">http://www.coachA.com/</a>
<b>設立:</b>	2001年10月
<b>代表者:</b>	代表取締役会長 伊藤 守 取締役社長 鈴木 義幸
<b>資本金:</b>	1億円

80名のプロフェッショナルコーチが属し、グローバルにも活動を展開する日本最大規模のコーチング・ファーム。企業・組織におけるリーダーシップの開発を目的とするエグゼクティブコーチングを軸に、リーダー育成プログラムや人材開発、組織開発などのコンサルティング事業を行う。